

生徒指導の機能をいかす道徳学習指導案

6年

1 単元名

「気持ちのよい学校へ」

2 指導観

(1) 児童について

本学級の子ども達は、2学期からボランティア活動の一環として、朝のあいさつ運動に取り組んでいる。自分達があいさつ運動を実施することによって、みんながあいさつをすることができ、朝から気持ちのよい学校生活が送れるのではないかという考えからである。

しかし、日々の生活の中、子ども達はあいさつはできているが、「名札をつけよう」「廊下を走ってはいけない」「忘れ物をしないように」など様々なことを教わったり、注意されたりしている。頭では分かっているつもりでもなかなかできていないのが現状である。

そこで、みんなが気持ちよく過ごすために大切なのはどんなことなのか、子ども達自身が学校生活を見直して考えることを通して、ルールやマナーの大切さに気づかせたいと考えた。

(2) 教材について

学校という場は、集団での生活である。そこでは、みんなが安全にそして気持ちよく過ごすために「当たり前だけれどとても大切な」ルールやマナーが必要になってくる。そこで、ルールもマナーも含め、「自分も周りの人も気持ちよく生活するために」という視点から、集団の中でのよりよい姿を子ども自身が見つけていくことをさせたいと考えた。

自分の日常をふり返ることで、つい無視してしまっているルールやマナーが自分自身の中で見えてくる。そして、この授業をきっかけとし、みんなが気持ちよく過ごすために必要なことを探していく中で、自らがみんなの手本となり、よりよい学校へという意識を高めていくことができるだろう。

(3) 方法について

この授業により、子ども達は学校の中の様々なルールやマナーに気づいていく。当たり前のようであるが守ることが難しかったり、実はみんなが気持ちよく過ごすために大切だったりすることの存在に気づかせていく。

また、自分達の生活をふり返り、見つけ出したルールやマナーを常に意識できるように、グループでカルタを作り、カルタ遊びで楽しく活動させる。

3 本時

平成20年1月28日(月)第5・6校時 6年2組教室にて

4 本時目標

- 学校の中でのルールやマナーの大切さに気づき、「当たり前だけど大切なこと」を考えることにより、お互いが気持ちよく過ごせるようにしていこうという気持ちをもつ。
- 見つけ出した学校の中でのルールやマナーを意識して、仲間と協力してカルタ作りやカルタ遊びを楽しむことができる。

5 規範意識を高めるための本時授業の工夫

- 規範意識を高める本時の価値

子ども達自身が学校生活を見直して考えることによって、ルールやマナーの大切さに気づき、気持ちのよい学校生活を過ごし、よりよい学校へという意識を高めていくことができる。

また、互いに尊重し合えるように、友達のよさや自分のよさに気づいたり、グループの仲間と認め合ったり、支え合いながら仲間と関わらせる。

- 自己存在感をもたせるための工夫

子ども達の中で、自分の力を発揮したり、自分の事を大切な人だと思ってくれていると感じたりできるように、グループの話し合いで、互いのよさを認め合いながら友達と協力して、大切なグループの一員であるという安心感をもたせる。

- 評価の工夫

子ども達自身が、自分にあった内容や方法を見つげ出し、決定したり選択したりできるように、グループでの活動を楽しませる。

6 本時指導の考え方

本時学習では、学校の中でのルールやマナーの大切さに気づき、「当たり前だけど大切なこと」を考えることにより、お互いが気持ちよく過ごせるようにしていこうという気持ちをもたせることをねらいとしている。

始めに、資料を読み、1年生と6年生の行動を比較し、みんなが気持ちよく過ごすために大切なのはどんなことなのか課題をとらえ、資料を通じて学校生活を見直して考えることを通して、ルールやマナーの大切さに気づかせる。

次に、現在取り組んでいる朝のあいさつ運動について、気づいたことや思ったことを発表させる。自分達が手本となってあいさつ運動をすることによって、みんながあいさつをすることができ、朝から気持ちのよい学校生活が送れているか振り返る。

さらに、あいさつ以外でみんなが気持ちよく過ごすために「当たり前だけれど、とても大切な」ルールやマナーについてグループで話し合う。

最後に、グループから出た考えを発表し、見つけ出したルールやマナーをみんなで確認し合えるように各グループでカルタを作り、カルタ遊びを通じて、ルールやマナーを常に意識できるように楽しく活動させたい。

7 準備

教師…学習プリント、カルタ作成用画用紙、マーカー
児童…色鉛筆、名前ペン

8 本時の展開

学習活動と内容	生徒指導の視点に立った支援
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> めあて 「当たり前だけれど大切なこと」を考えよう。 </div> <p>2 資料「当たり前だけれど大切なこと」を読んで、登場人物の考えや行動について話し合う。</p> <p>(1) 6年生が泥を落としたのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昇降口が汚れるから。 ・掃除が大変だから。 ・他の人に迷惑がかかるから。 <p>(2) こうた君はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生のように泥を落としていれば良かった。 ・ゆいちゃんに悪いことをした。 ・友達を傷つけて後悔した。 <p>3 みんなが気持ちよく過ごすために必要なことを話し合う。</p> <p>(1) 朝のあいさつ運動をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつされると気分がいい。 ・あいさつを返してくれるとうれしい。 ・あいさつが返ってこないと嫌な気持ちになる。 <p>(2) 「当たり前だけれど、とても大切な」ルールやマナーについてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考え、学習プリントに記入する。 ・個人の意見をグループで出し、話し合いをする。 <p>4 見つけ出したルールやマナーをみんなで確認し合う。</p> <p>(1) グループから出た考えを発表し、グループでカルタを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで分担してカルタを作り、クラスで一つのカルタを作る。 <p>(2) ルールやマナーをみんなで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったカルタで、楽しみながらカルタ遊びをし、ルールやマナーをみんなで確認する。 	<p>○本時のめあてを意識させるために、学習プリントに記入させる。【自己決定の場】</p> <p>○自分に置き換えて、考えさせる。【自己決定の場】</p> <p>○一人の不注意が友達の迷惑になってしまうことに気づかせる。【共感的人間関係】</p> <p>○反省するこうた君の気持ちに目を向けさせる。【自己決定の場】</p> <p>○あいさつ運動をして、気づいたことや思ったことを発表させる。【自己決定の場】 【共感的人間関係】</p> <p>○話し合いがやりやすいように個人で考えた後に、グループで話し合わせる。【自己決定の場】 【共感的人間関係】 【自己存在感】</p> <p>○グループで出たルールやマナーを文章にし、カルタを作らせる。【自己決定の場】 【共感的人間関係】 【自己存在感】</p> <p>○ルールやマナーをみんなで確認するため、カルタ遊びをさせる。【共感的人間関係】 【自己存在感】</p>

9 成果と課題

- 資料からは、自分に置き換えて考えることができ、1年生の実態を理解し、日頃の自分の行動を振り返ることもできた。また、自分達も気づかないことがあるのだから、1年生はもっと分からないのではないかという考えをきっかけに、学校の中での大切なルールやマナーを考えることができた。
- 子ども達が考えた学校で大切なルールやマナーは、学校のきまりに始まり、マナーや友達関係にも及んでいた。学校の中で子ども達が大切に思うことは、思ったより幅が広くとらえていることが分かった。
- この授業で、自分達が気持ちのよい学校生活を送るうえで大切なことはいったいどんなことなのかを考え直すことができた。さらに、グループで話し合ったり、カルタを作成する中で、ルールやマナーをみんなで確認しながら楽しく活動することができた。

10 資料